

2022年度 兵庫県立播磨南高等学校 学校評価に関する報告

【2022年度 重点目標】

ア	品格のある生徒の育成	4	できている
イ	夢の実現を可能にする学力の養成	3	だいたいできている
ウ	地域で学び、地域に学び、地域で輝く人の育成	2	あまりできていない
		1	できていない

領域	評価の観点	評価項目	質問	今年度の取組状況	回答番号	保護者	生徒	教員
学校経営	開かれた学校づくり	広報活動の充実	学校ホームページやメールメイト(南高ネット)を活用できている。	学校ホームページを活用し、本校の教育活動状況のタイムリーな広報とともに、内容の充実に努めた。また、行事開催のお知らせや配布物の案内等を南校ネット及びスタディサブリを用いて随時配信した。	1	2.7	2.3	2.9
	生徒指導	基本的な生活習慣の確立	制服の着こなし・頭髪・通学マナーなど、規範意識は高まっている。	服装・頭髪について、継続的かつ一貫した指導を行ったが、スカートを短くしたり化粧をしたりなど課題が残った。	2	3.4	3.4	1.7
			生徒は登校時刻を厳守し、時間をしっかり守れている。	一定数の生徒が遅刻している。交通マナーや通学マナーについて、苦情電話は減少しているがなくなっていない。苦情電話があれば、現場の巡回を行うなどの対応を行った。	3	3.5	3.5	2.3
		生徒の自立的・自主的活動への支援	生徒は学校行事や委員会活動において主体的に行動し、学校の活性化に貢献している。	コロナウイルス感染拡大防止に努め、内容を工夫しながら、コロナ前の学校行事はほぼ全て行うことができた。あわせて、行事の精選を考える機会となった。	4	3.0	3.1	2.7
			地域貢献活動を通して奉仕の精神を養うとともに、地域の活性化に貢献している。	4月のはりま風薫るフェスタ、11月の大中遺跡まつりなどにボランティア生徒が参加し、播磨町の活性化に関わった。	5	2.7	2.7	3.1
		いじめの未然防止および早期発見	いじめのない学校づくりができています。	学期に1回いじめアンケートを行い、その結果を踏まえて聞き取りを行った。あわせていじめ対応委員会を開き情報を共有し、いじめの可能性のある事象への対応を行った。	6	3.3	3.3	3.3
		品格のある生徒の育成	生徒は品格のある所作や言葉づかい、制服の着こなしができています。	制服の着こなしについては、スカートを短くしたり、体操ズボンをはいたり何度注意されても意に介さない生徒がいる。	7	3.3	3.3	1.8
	進路指導	個々の能力・適性を踏まえた進路指導の実現	生徒は就職模試や面接指導等を通して、働くことの意味を理解できている。	就職希望者に対し、インターンシップへの参加や継続的な就職指導等、を行った。また、地元の職業人を講師に迎えて講演会を行った。さらに、キャリアノートを自校生徒向けに修正し、事前・事後の指導に用いるなどして、望ましい職業観の育成に努めた。	8	3.0	3.0	2.8
			生徒は学校で行われた進路ガイダンスで提供された資料を活用し、進路選択に役立っている。	業者による分野別のガイダンスに加え、大学の魅力を伝える進路ガイダンス、職業ガイダンスを実施した。	9	3.0	3.0	3.0
		将来を見据えたキャリア教育と段階的な目線に基づく進路指導の実現	生徒は自らの進路目標を立て、実現に向けて取り組んでいる。	進路関係のガイダンスを行い、早期に目標を立て、進路実現に向けて取り組めるように情報提供を行った。また、1年対象に生き方を考える講演会を行うとともに、その事前学習と振り返りを行った。	10	3.1	3.1	2.9
	地域貢献活動の充実	地域行事へのボランティア参加や学校間交流を通じて、播磨町の活性化推進に貢献する	生徒は生徒会・地域が主催する各種行事、ボランティア活動に、積極的に参加している。	「わくわく☆ふえすた」、「こころふれあう町民のつどい講演会」、「人権・同和教育研究協議会50周年記念研究大会」などの播磨町主催のイベントに参加した。	11	2.6	2.6	3.3
			播磨町の活性化と、地域の課題解決に積極的に取り組んでいる。	高齢者にスマホの操作を教える「コープこうべスマホ教室ボランティア」に生徒が教える側として参加し、播磨町の活性化・地域の課題解決につながるボランティア活動を行った。	12	2.4	2.5	3.1
教育課程	基礎・基本の定着	基礎学力の向上・公開授業の実施	生徒はスタディサブリなどにより、学びに向かう気持ちが高まり、基礎学力が定着している。	スタディサブリの到達度テストを実施。学びに向かう姿勢を養うとともに、基礎学力の定着に努めた。	13	2.8	2.7	2.3
	個に応じた学習指導の徹底	生徒の実態に即した授業改善	生徒は授業内容をよく理解できている。	対話・発話中心の授業を行うことで、一方的な講義形式の授業割合を少なくしてきている。1クラス2展開の少人数授業を行う科目などで、目の届きやすい授業を行い学力の定着を図った。	14	3.1	3.1	2.8

領域	評価の観点	評価項目	質問	今年度の取組状況	回答 番号	保護者	生徒	教員
課題教育	防災・安全教育	防災・安全教育の充実	防災・安全教育や避難訓練によって、不測の事態に適切に対応できる力が身についている。	1・2学期に全校での避難訓練を実施した。1月17日に阪神淡路大震災の追悼行事を行った。	15	3.1	3.3	3.1
	人権教育	人権教育の充実	人権ホームルームや講演会などによって、人権意識が高まっている。	1,2年は「男女共同参画社会の実現に向けて」、3年は「結婚差別」をテーマに人権学習を行った。今年度は、各教室にて担任による指導を行った。	16	3.1	3.3	3.0
	情報教育	情報活用能力の育成	情報の授業や総合的な探究の時間の取組を通して、情報活用能力が高まっている。	総合的な探究の時間において、フィールドワーク等でタブレットを使用して情報の整理や共有を行った。	17	3.1	3.2	3.1
		情報モラルの向上	情報の授業や講演会などによって、情報モラルは高まっている。	サイバー犯罪防止講演会を実施した。	18	3.1	3.3	3.0
	学校の個性化・多様化	インスパイア・ハイスクール事業を活用し、特色類型の活性化を図る	専門家を講師に招き、特別講座を実施することで、より専門的な指導を受けられている。	音楽と家庭科で外部講師による授業を実施した。また、美術では、大学訪問を行った。さらに、学校説明会では、生徒が体験授業の補助を行った。	19	3.1	3.1	3.0
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	「探究」を中心とした授業改善に努める	総合的な探究の時間の内容の充実に積極的に取り組んでいる。	昨年度末作成した総合的な探究の時間の年間計画に沿いつつ、生徒の反応と探究の進捗状況を見ながら適宜修正を加え実施した。	20	3.1		3.0
	基礎・基本の定着	基礎学力の向上・公開授業の実施	生徒の基礎学力向上へ向けた授業改善に積極的に取り組んでいる。	公開授業の期間を設け、職員が相互に見学し意見交換を行った。	21	3.1		2.7
	個に応じた学習指導の徹底	進路や将来を見据えての入試、科目の設定	生徒の進路を見据えた科目の設定がされている。	進路実績を踏まえ、生徒の実情に合ったカリキュラムを検討した。英語において少人数授業を実施し、総合的な探究の時間の内容の充実に取り組んだ。	22	3.2		2.8
学校経営	開かれた学校づくり	広報活動の充実	学校案内、学校説明会の充実を図る。	オープン・ハイスクール及び学校説明会を生徒が運営し、生徒が説明するかたちに変更した。約9割の参加者が、播磨南高校のことが理解できたと回答した。また、学校説明会における体験授業は、参加中学生の多くが良かったと回答し大きな成果を収めた。教員が行ってきた中学校訪問を校務運営メンバーで行い新類型を中心に情報を伝えた。	23			3.1
	教職員の資質向上	教員の指導力の向上	外部講師を活用した研修、校外研修などで資質向上を図る。	高等学校における通級指導に関する研修を実施した。従来の指導では成果が見られない生徒について、施すべき支援のあり方について理解を深めた。BYOD導入初年度だったが、タブレットを用いた授業の研修を実施した。デジタル採点システムも多くの先生が使うようになった。	24			2.9
	危機管理体制の整備	実効性のある危機管理体制の確立と危機管理マニュアルを作成する。	関係機関との連携を密にしながら、危機管理マニュアルを改訂するとともに、避難訓練等を実施する。	播磨町危機管理課と意見交換を行っている。播磨町と包括的な連携協定を結び、避難所と福祉避難所の協定を締結しているため、継続的に危機管理マニュアルを改訂していく必要がある。	25			2.4
教育課程	総合的な探究の時間	地域との協働を中心とした、総合的な探究の時間の計画の立案	地域の課題発見・課題解決能力を養うことにつながる内容の総合的な探究の時間を実施する。	播磨町との包括的な協定を締結したため、地域の課題発見・課題解決に取り組む際、播磨町各機関と連携した活動を取ることができる。また加古川税務署と連携し、地元経営者による特別講義を実施した。	26			2.8
	特色ある教育課程の編成	芸術保育類型の活動をさらに充実・発展させる	芸術保育類型の各授業、活動を充実させ、より専門的な知識・技術の習得を目指す。	特別非常勤講師を招き、より専門性の高い内容の授業を行っている。	27			2.8
		学校設定科目と多様な選択科目の内容を検証する	新学習指導要領を視野に入れてカリキュラムを編成するとともに、生徒の実態に即して授業内容や評価の見直しを行う。	地域デザイン類型の方向性を全教員の共通理解を図りながら、学校設定科目と選択科目の内容を検証した。あわせて、カリキュラム・マネジメントの視点による教育課程の改善に取り組んだ。	28			2.8